

解説

附属幼稚園 4歳児

タイトル：「おちゃのみずゆうびんきょく」遊びを通して～コンピテンシーの基盤となる暮らしを考える～

授業者：灰谷知子・伊川千晶・大江由布子

解説タイトル：

ごっこ遊びが育む創造力と協働力

コンピテンシー育成開発研究所

特任助教 押尾 恵吾

本報告は、附属幼稚園において年中児が「おちゃのみずゆうびんきょく」と名付けた郵便ごっこを展開する過程を通して、遊びがどのように子どものコンピテンシー育成につながるかを振り返った実践記録である。もともとは年長児が廊下で始めた郵便局遊びを年中児が見て取り入れ、自分たちの保育室近くにも郵便局を作りたいと発展させたことが契機であった。ポストを段ボールで作る際には、年長児が使っていたカッターを借りるなど、年長児の姿を真似しつつ、仲間と協力してモノづくりに取り組む姿が見られた。また、ハガキを配達することを通じて「友達に思いを届けたい」という願いが形になり、遊びが広がっていった。

さらに「ポストにはお金を入れてください」という子ども発のルールが共有され、遊びの世界が一層豊かに展開した。担任が手紙を書き続けることで、子どもたちは友達や教師にハガキを届ける喜びを味わい、相互に関わる中で協働的な態度を育んでいった。また、親子体操で関わった体操のお兄さんに手紙を書いて渡す姿からは、自分の思いを相手に伝えたいという「他者理解」の芽生えが読み取れる。

これらの経験は、子どもたちが「創造的思考力」（新しい価値や考えを生み出す力）、「協働性」（役割分担や助け合い）、「他者理解」（相手の立場や思いを推測し理解する力）といったコンピテンシーの基盤を培っていることを示す。教師は、子どもの心が動く瞬間を逃さず、モノや場を残すことで遊びを継続的に保障し、子ども同士の関わりを広げる環境構成を意識していた。結果として、年長児との関わりを起点に、自分たちなりに遊びを創造・発展させるプロセスが、暮らしを豊かにし、将来的な学びの基盤となる資質能力の育成につながることが明らかにされている。